

言語聴覚療法の内容

<失語症>

脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷などで一度獲得された言語機能が障害される状態です。「話す」「聞く」「読む」「書く」という4つの側面が障害されます。



失語症検査

<高次脳機能障害>

脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷などで脳が損傷されたために、言語・思考・記憶・行為・学習・注意などに障害が起きた状態です。

<発話 (Speech) の障害>

ディサースリア (dysarthria)

脳卒中や変性疾患 (パーキンソン病や脊髄小脳変性症など) で口唇や舌などの発声発語器官に麻痺や運動障害が生じ、音が歪んだり、省略されるなど、話し言葉全体が不明瞭になる状態です。

器質性構音障害

発声発語器官の手術、口蓋裂 (先天的な口蓋の形態異常) などが原因で固定化された構音の誤りが生じる状態です。

機能性構音障害

聴覚や発声発語器官に明らかな原因が無いのに、誤った構音となる状態です。幼少期に多くみられます。

音の置換型の例：おかあさん → おたあさん

<摂食嚥下障害>

脳卒中や変性疾患、口腔・咽頭癌の手術などで食べたり飲んだりすることが困難になる障害です。

口から食べ物がこぼれる、口の中にたまる、飲み込めない、むせるなどの症状がでます。嚥下障害のある患者さんは本来食道に入るべき食物が気管に入ることにより誤嚥性肺炎を起こすことがあります。



口の中を刺激し、感覚を向上させる練習



飲み込みに必要な力をつける練習

嚥下障害の疑われる患者さんに対しリハビリテーション科の医師と連携して嚥下造影検査を適宜行い、飲み込みの状態を把握しています。



嚥下造影検査食



嚥下造影検査場面

<音声障害>

声帯に関係する種々の原因（声帯ポリープ、声帯結節、ポリープ様声帯など）により生じる声の障害です



声の高さ、大きさの調節を練習

<言語発達遅滞>

精神発達遅滞、自閉症、学習障害、難聴などの原因により対人関係形成や言葉の発達が遅れた状態です。



小児言語発達遅滞検査道具